

(2) 施策の方針

第1章 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち

分野(1) 平和

施策の方針① 平和推進事業の充実

< 目標とすべきまちの姿 >

若い世代も含め、市民一人ひとりの平和意識の醸成が図られることで、平和を基調にした世界に誇れるまちとなっています。
平和都市宣言及び鎌倉市市民憲章について、さらに周知が図られています。

1 事業評価結果一覧表

経営企画部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
経企-18	平和推進事業	584	7,414	0.9	b	B

2 平成26年度末の目標

経営企画部

平和都市宣言の精神を広め、後世へ伝えるため幅広い年代層が参加できる企画立案に努めるとともに、啓発的な事業の他に市民が主体的に参加できる事業について取り組んでいく。また、引き続き体験談等を記録に残すため、DVD等の作成を行う。

3 平成26年度の取組の評価

経営企画部

効率性	計画全体の推進に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	計画全体の推進に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	計画全体の推進に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	計画全体の推進に向け、受益機会が偏っていない(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

市民実行委員とともに、講演会「憲法記念日のつどい」・市内の小中学生向けの「出前講話“平和”」・平和意識の啓発を図る「平和を考えるパネル展」・コンサート「平和のつどい」などの平和推進事業を企画実施した。また、藤沢・茅ヶ崎両市と平和推進事業の連携を模索する会議を実施した。

4 今後の方向性

経営企画部

戦争体験を若い世代に語り継ぐことが困難になることが懸念されるため、体験談を記録することが求められている。また、若い世代が多く参加できるような事業を実施する必要がある。

5 平成27年度末の目標

経営企画部

事業内容や周知の方法についてさらに検討を重ね、若い世代の参加を増やす。また、戦後70年を契機に新たなイベントを実施し、平和意識醸成を図る。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

・戦争体験者からの聞き取り、被爆体験記録DVDの作成や、小、中学生への平和の出前講和などを市民実行委員と協働実施したこと。

2 課題・提言

・目標とすべきまちの姿には意識の醸成、周知が特筆されているが、意識調査ではこれらの取り組みを「知らない」とする割合が半数を占め、「力をいれなくてよい」順位でも比較的上位に位置することから、意識醸成、周知の方法を再検討する必要があるのではないか。

・とくに若い世代が参加しない要因を掘り下げて分析すべきである。

・平和都市宣言の精神を広め、後世へ伝えるため、若い世代の参加が得られるようなイベント事業が必要と思われる。